

J-MILK REPORT

私たちはミルクでつながっています。

AUTUMN / WINTER 2022 Vol.45



2 お知らせ

みせよう！わたしたち酪農乳業のチカラ。

3 牛乳でスマイルプロジェクト

「牛乳でスマイルプロジェクト」っていったい何だろう？

4 座談会

学校・家庭・地域で支える子どもの食と栄養

児玉 浩子氏 (帝京平成大学大学院 健康科学研究科
健康栄養学専攻 特任教授)

長島 美保子氏 (公益社団法人全国学校栄養士協議会 会長)

相川 敬氏 (相川海運産業株式会社 代表取締役
元・公益社団法人日本PTA全国協議会 会長)

業師寺 亨氏 (認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ)

加茂 太郎氏 (株式会社加茂牧場 代表
地域交流牧場全国連絡会 会長)

大村 貴志氏 (森乳業株式会社 営業部長)

8 カルシウム200+

学校が休みの日に

お家でたのしく牛乳を飲むツール

9 Q&A Vol.5

最新研究でわかった！ミルクの気になるギモンQ&A

10 地域連携のポジティブ発信

～楽しくつながる、北海道広尾町～

SNSの活用で酪農乳業と牛乳・乳製品の価値向上へ

小澤 達也氏 (広尾町農林課農政林務係 係長)

齊藤 祐輔氏 (広尾町農林課農政林務係 主事)

角倉 円佳氏 (株式会社マドリン 代表取締役)

菊地 亜希氏 (菊地ファーム)

松山 孝三氏 (広尾町農業協同組合 営農事業部 部長)

芳賀 基浩氏 (広尾町農業協同組合 営農事業部 農業振興課 課長)

田村 朋之氏 (広尾町農業協同組合 営農事業部 農業振興課 主任)

三田寺 真助氏 (雪印メグミルク㈱ 酪農部 北海道酪農事務所 課長〔十勝エリア〕)

14 Jミルクの最新コンテンツ

15 Information

表紙・裏表紙イラスト：佐藤 香苗さん(イラストレーター)



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)

J-MILK REPORT Vol.45 AUTUMN / WINTER 2022 | 発行日/2022年10月 編集・発行/一般社団法人 Jミルク

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1-20 お茶の水ユニオンビル5階 TEL 03-5577-7492 FAX 03-5577-3236

✉ info@j-milk.jp 🌐 https://www.j-milk.jp 📘 https://www.facebook.com/jmilkjp

📷 j_milk_official 🐦 @Jmilkofficial 📺 YouTube公式チャンネル

2022年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援



「牛乳でスマイルプロジェクト」 っていったい何だろう？

2022年6月、Jミルクが農林水産省とともに、「牛乳でスマイルプロジェクト」を立ち上げました。本プロジェクトは酪農乳業だけでなく、食品・小売・流通・情報サービスなど、業界の垣根を越えて、牛乳・乳製品の需要を掘り起こすために幅広い取り組みを推進するものです。“牛乳でスマイル”ロゴと一緒に、酪農と牛乳・乳製品の魅力を伝えながら、牛乳・乳製品でみんなを笑顔にする活動に参加しませんか😊

目的

国産の牛乳・乳製品と日本の酪農乳業を守るため、酪農乳業界にプラスして異業種・他業界とも連携し、共通のロゴマークで一体感を持って、牛乳・乳製品の消費拡大に取り組む。

登録

- ★牛乳・乳製品の消費拡大に取り組めば、どなたでも登録OK
- ★登録後、スマイルプロジェクトのロゴマークGET
- ★農林水産省HPにプロジェクトメンバーとして掲載

※Googleフォームを利用できない方は、info@j-milk.jpまでお問い合わせください。

参加登録はこちら



交流

- ★メンバー限定の交流会に参加してネットワークを構築
- ★プロジェクトメンバーと情報交換(ご紹介OK)

連携

- ★自社の取り組みに登録メンバーが参画
- ★登録メンバーとのコラボ企画を創出

プロジェクトメンバー (一部抜粋 2022年10月現在) ※五十音順

- ①酪農乳業
 - 生産者関係
 - ㈱石田牧場、うし活、沖縄県酪農農業協同組合、熊本県酪農農業協同組合連合会、(一社)全国酪農協会、全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、全国酪農農業協同組合連合会、(一社)全酪アカデミー、地域交流牧場全国連絡会、千葉県酪農農業協同組合連合会、利根沼田酪農部会、広尾町農業協同組合、美濃酪農農業協同組合連合会、ミルクランド北海道(ホクレン農業協同組合連合会)、㈱マドリ、安富牧場
 - 乳業者関係
 - カルピス㈱、協同乳業㈱、コーシン乳業㈱、全国乳業協同組合連合会、タカナシ乳業㈱、中央製乳㈱、トモエ乳業㈱、(有)牧成舎、(株)ホリ乳業、(株)明治、森永乳業㈱、森乳業㈱、雪印メグミルク㈱、よつ葉乳業㈱
 - その他の団体・企業
 - オリオン機械㈱、群馬県牛乳普及協会、(一社)全国牛乳流通改善協会、全国乳業協同組合連合会、NPO法人チーズプロフェッショナル協会、(公社)畜産技術協会、千葉県牛乳普及協会、(一社)中央酪農会議、(一社)日本チーズ協会、(一社)日本乳業協会、(公財)日本乳業技術協会、(一社)日本乳容器・機器協会、(有)酪農農事(株)、(株)南山デイリーサービス、森永製菓(株)

②製造(乳業・菓子製造以外)
味の素(株)、アスザックフーズ(株)、グリコ栄養食品(株)、日清シスコ(株)、日本ケロッグ合同会社、ネスレ日本(株)、ハウス食品(株)、ロート製薬(株)

③卸売・小売・流通
イオンリテール(株)、(株)イトーヨーカ堂、AGパートナーズ(株)、(株)SN食品研究所、(株)コマヤ、(株)サンブラザ、日本生活協同組合連合会、(株)ローソン

④飲食・サービス
(株)銀座ルノアール、(株)さとふる、食ベチョク、(株)日本旅行

⑤情報通信
あたらしい日日、クックパッド(株)、SnapDish、デザミス(株)、DELISH KITCHEN、(株)ファームノート、レシピサイトNadia、酪農PLUS+

プロジェクトメンバー一覧はこちら



取り組み事例



特設サイトを立ち上げ、ミルクレシピやイベントなどを紹介。北海道産ゴウダチーズを100%使用した新商品パッケージにロゴを掲載。(期間限定発売品)



「山形ブランド米×牛乳」のオリジナルレシピを公式Instagramで紹介。
酪農家が当日着用するオーバーオールにもロゴをプリント!

20,040*のチカラ

わたしたちは信じています。

酪農乳業界には、困難を乗り越えるチカラがあると。

コロナ禍や物価高騰などによる生活変化と市場の混乱が、

社会のさまざまな分野に影響を与えている中、

酪農乳業でも、生産基盤の弱体化や消費低迷の長期化が懸念されます。

だからこそ今、わたしたちには行動が必要です。

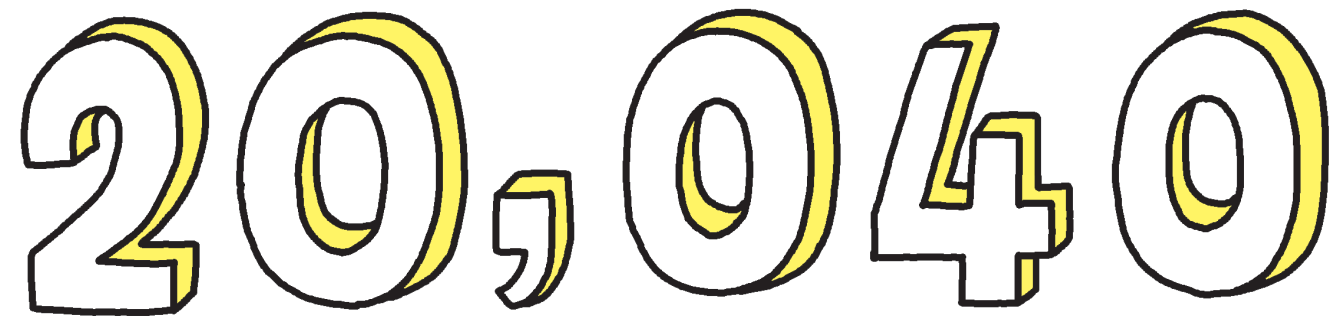
酪農乳業界が一体となって、全力で立ち向かうこと。

この先も国産の牛乳・乳製品を食卓へ届けるために。

わたしたち自身の未来を守るために。

思いをひとつに、仲間と結束して、行動で乗り越えていく。

それが20,040のチカラ。



みせよう！わたしたち酪農乳業のチカラ。



役職員参加型で牛乳・乳製品の消費に取り組む企画を考えます！

日本中の全組織のみんなが#1日1L買ったらどうなるんだろう。

朝は牛乳、昼はヨーグルト、夜はチーズ！

年末年始から春休み・GWにかけては、特に生乳需給が緩和するため、酪農乳業関係者が率先して、牛乳・乳製品の購入量を増やす必要があります。

第2回メンバー交流会

やっと今回、「Face to Face」

- 日時: 2022年11月22日(火)14:00~17:00(受付13:30~)
- 場所: TKPガーデンシティ浜松町14F「天平」
東京都港区海岸1-11-2 アジュール竹芝14F
- 申込: 登録メンバーのみご連絡いたします。
- 共催: 農林水産省、(一社)中央酪農会議、(一社)日本乳業協会、(一社)Jミルク

- プログラム(予定)
- 【特別講演】
“BUZZ MUFF”で話題「農水省の白石さん」が伝えたいこと
農林水産省 広報室 白石優生さん
このほか、乳と食開発者・小山浩子さんによる講演や、
国産チーズの紹介、参加者同士の交流時間があります。

詳細はこちら



*酪農乳業の組織数/①酪農家戸数:13,300(農林水産省「畜産統計」)②乳業メーカー工場数:559(農林水産省「牛乳乳製品統計調査(基礎調査)結果の概要」)③牛乳販売店数:5,946(経済産業省「商業統計」)④全国の指定生乳生産者団体の会員数:52(各団体Webサイト)⑤乳業団体の都道府県団体会員数:70(各団体Webサイト)⑥Jミルク会員とJミルク:113(JミルクWebサイト)

詳細はこちら



Jミルク 需給見通し



学校・家庭・地域で支える 子どもの食と栄養

学校給食の「ある」「なし」が、子どもの栄養摂取状況に影響することが各種調査で明らかになっています。特に「給食のない日」に不足しがちな栄養素はカルシウムで、家庭で牛乳が十分に摂取されていないことが原因といわれています。そこで、さまざまな立場で子どもの食生活と栄養に関わる方々にご参加いただき、「学校・家庭・地域が子どもの栄養問題解決に向けてできること」についてディスカッションを行いました。



加茂さんは、小学校の子どもたちに酪農体験や出前授業を行い、酪農を身近に感じてもらおう活動を続けている。

「給食がない日」の子どもたちの栄養問題解決へ あらためて見直したい 学校給食と牛乳の役割

子どもたちの栄養摂取や食生活上の課題について、それぞれの立場からご意見ください

児玉浩子氏（以下、児玉） コロナ禍の休校や長期休暇の子どもの栄養調査で、カルシウム、鉄、ビタミン類、食物繊維などの不足が報告されています。特にカルシウム不足が顕著で、給食のない日に家庭で牛乳を飲んでいないことが大きな要因と考えられます。（図1）

牛乳200ml（コップ1杯）でカルシウムを200mg以上摂取できます。他の食べ物に比べてカルシウムの吸収率が高く、さらにアミノ酸のバランスも非常に良く、たんぱく質の摂取にも有効です。

カルシウムは子どもに限らず全年代で不足気味ですから、今こそ「家庭の冷蔵庫に牛乳を常備して、家族全員で牛乳を飲みましょう」と呼びかけたいです。
長島美保子氏（以下、長島） 子どもの食と栄養における学校給食の役割はますます大きくなっています。健康増進と体位向上を目指して栄養バランス

する、安全な地域づくりの場でもあります。また、子どもたちへの食育、生活習慣を身につけることも大切なテーマとして取り組んでいます。

食べ物の成り立ちや価値 体験的に学べる場が必要

加茂太郎氏（以下、加茂） 私は小学校教員を退職後に酪農家になり、酪農教育ファーム活動などを通じた食育の支援も行っています。

今の子どもの食について思うのは、例えば給食の牛乳が、実際の意識として「牛」につながっていないのです。魚も海で泳いでいる生き物という知識はありますが、子どもの頭にあるのはスーパーで並んでいる切り身という感じがしています。そんな子どもたちに、どういう成り立ちで食べ物が生まれているのかを伝えて、本質的な価値を知ってもらいたいと考え、食育活動を続けています。

学校での出前授業や、牧場で食料生産の現場や牛の大きさを体験すると、牛乳は自然からの恵みであることを実感できるようになります。学習後は、牛乳に限らず他のものを含めて給食の食べ残しがかなり減るそうです。

の取れた食事を提供するとともに、バランスよく食べることの大切さ、牛乳の大切さを教える食育教材としての役割もあります。

バランスの取れた学校給食は、家庭での食生活の見本となることを目指しています。給食を教材として子どもが学校で学んだことを、保護者とともに家庭で実践してもらうことが私たちの目標です。

相川敬氏（以下、相川） 今回の座談会の前に、「牛乳」について聞いてみたところ、若い人より年配の人のほうが牛乳の必要性を理解していました。若い世代に牛乳の意識があまりないことが、成長するにつれ牛乳を飲まなくなる理由にあると思います。

運営している学童クラブの子どもたちに聞くと、「白い色が嫌いで食を誘わない」という声がありました。大人の目線で「栄養価が高いよ。非常にいいものだよ」という飲ませ方だけでなく、子どもたち目線になって好んで飲む方法を工夫することが必要だと思います。

薬師寺亨氏（以下、薬師寺） 農林水産省の調査によると、家族と夕食を食べる頻度が週2〜3回以下の人は計

大村貴志氏（以下、大村） 「牛乳の白色が苦手」という子どもの声がありました。したが、弊社では数年前からトラックに「牛乳って、なんで白いの？」と問いかける絵を描いています。それを見た子どもたちが気になって答えを探してもらうきっかけづくりです。

また、学乳の紙パックを月に1回程度変えて、食育や牛乳に関する話題をクイズで紹介しています。答えはパックのどこかにあるので、探しながら子どもたちに給食を楽しんでもらっています。先生方からも好評で、「子どもたちがじっくり読んでいるよ」と言っていたりしています。

牛乳を飲む場や楽しみ方 子ども目線で考える

給食のない日の子どもの栄養課題の改善に牛乳は貢献できます。休日や長期休みなど、学校外で牛乳を飲む機会をどう増やせばいいでしょうか。

相川 子どもたちは休日もずっと家にいるわけではなく、学童保育や習い事、部活動など外出も多いので、出先で牛乳を提供できればコンスタントに飲んでもらえると思います。

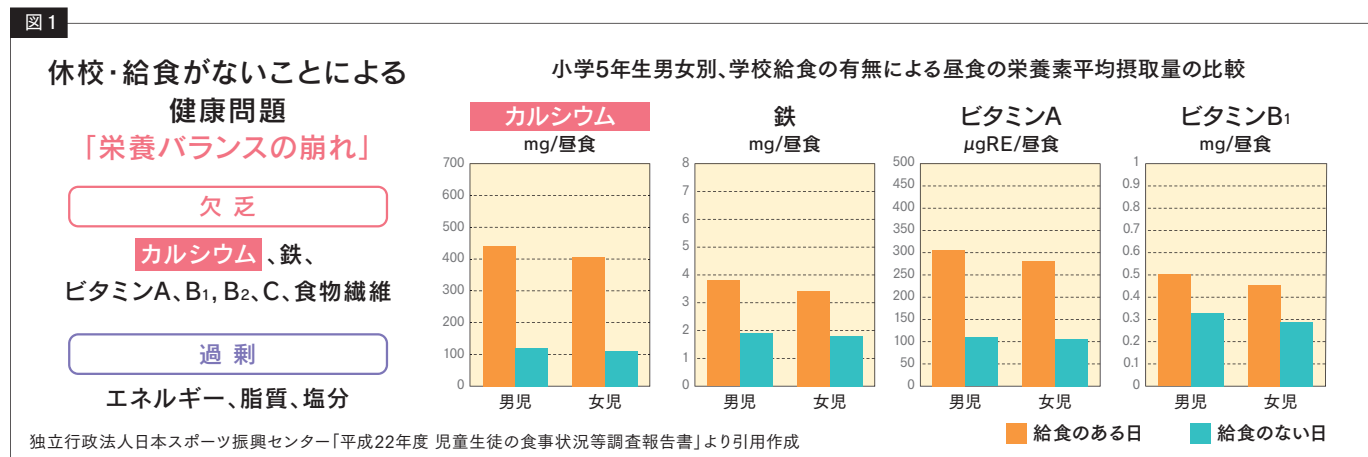
真冬でも冷たいものが好きなど、好みに合わせた飲み方の提案も必要でしょう。子どもが楽しく自由に飲める



長島 美保子（ながしま みほこ）氏
公益社団法人
全国学校栄養士協議会 会長
1948年生まれ。長年にわたり栄養教諭を務め、現在は島根県立大学短期大学松江キャンパス非常勤講師として教鞭をとる。2012年より公益社団法人全国学校栄養士協議会会長。食育推進会議委員、食品ロス削減推進会議委員などを歴任。



児玉 浩子（こだま ひろこ）氏
帝京平成大学大学院 健康科学研究科
健康栄養学専攻 特任教授
1970年、大阪大学医学部卒。帝京大学小児科教授、帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科教授・学科長を経て、現職。専門分野は、小児栄養・代謝・内分泌、微量元素の代謝・栄養。日本臨床栄養学会臨床栄養教育賞など受賞多数。





学校給食の重要性と給食がない休みの日の子どもの食と栄養問題についての座談会を、リモート形式で実施。オンラインながら熱のこもった意見交換が行われた。

相川 子どもは香りや酸味の強いものが苦手だったのが、ある年齢を過ぎると飲めるようになったりします。そうした味覚の変化に合わせて、味に変化をつけてはどうでしょう。小さい子は量が飲めないの、飲みやすい量を提供してあげるのも有効ではないかと思いました。

薬師寺 こども食堂の運営者の方への情報発信が大事だと思います。メニューの中に牛乳を入れるかは、頭の中にあるかないかでだいぶ違います。例えば、お話に出ている牛乳パック

学校・家庭・地域で牛乳消費を増やすために

酪農乳業が学校や家庭、地域と連携し、酪農や牛乳・乳製品の価値を伝え、積極的な摂取につなげるための提言を。

給食での牛乳の飲み残しは、小学校高学年から中学生に多いです。その年代に響くような食育を行うことが、高校以降の食生活につながるっていくのではないかと考えます。



Webサイトの掲載はこちら

加茂 はい、酪農は今極めて厳しい風にさらされています。日本の酪農家の多くが輸入飼料を使っていますが、ロシアのウクライナ侵攻や円安加速で、コロナ前比で6割も値上がりして経営を圧迫しています。酪農も進んでいて、私の周りでも何軒も廃業していますし、正直うちもギリギリの状態です。減産して牛を淘汰すると、生産の再開には種付けから始めて3年〜5年も

かかるので、廃業した酪農家の再開はまず不可能と言われています。それでも我々はコスト削減のため、トウモロコシの代わりに、おからやビールカサなどを発酵させたものや野菜のくずなど、牛が食べなければ廃棄せざるを得ないものを餌として利用しています。酪農家はみんなこのような工夫をしています。とにかく良い時がくるのを信じて頑張るしかありません。

のクイズを、インスタなどで発信して関心を持ってもらうのはどうでしょうか。それから、牛乳と合わせて朝食になる食材とのコラボレシピを提案することも、運営者の方に気づきを提案することができるので牛乳の認知が高まると思います。

長島 給食現場でも、例えばひじきや切り干し大根を牛乳に浸してから一緒に煮込むなど、調理への牛乳活用を日々工夫しています。こうした調理用牛乳としての活用アイデアを家庭に発信することも大事な取り組みです。もう一つは、生産現場と連携した食育の充実です。お話にあったように、食べ物を調理された形でしか認識できない環境にいると、食への感謝の心は育ちません。牛乳は牛の乳、命に直結したものだということを体験を通して学ぶことが重要です。子どもが学ぶ姿を見てもらうことは、酪農家のみなさんを応援することにもつながると思います。

大村 夏休みに学童で牛乳を飲んでもらうのは良いアイデアですね。学校と自治体で供給のしくみを取りまとめていただければ、メーカー側も対応可能だと思います。

運動や部活動の場合は、通常のチルド牛乳は要冷蔵で衛生的に持ち運びが難しいので、どこでも安心して飲めるロングライフ牛乳が適しています。

薬師寺 子ども食堂にも冷蔵設備のないところがあります。森乳業から提供いただいているロングライフ牛乳は、いつでも配れる、いつ飲んでもいいということ、すごく使い勝手が良い

と評判です。

児玉 「牛乳の白いのが嫌い」「味がおいしくない」という子どもは少なくないので、飲みやすさを考えてあげることは大事です。

ヨーグルトにフレーバーがついているように、牛乳にも色をつけたり、シロップで味を変えたりする工夫で、牛乳嫌いが減るのではと思います。

以前のアンケートで、小学校の食育でいろいろなことを学んでも、中学、高校になると忘れてしまうという結果がありました。牛乳の大切さや栄養価の高さを忘れないように、中学から高校、大学と食育を継続していくことも重要です。

長島 高校の給食実施率は非常に低いので、多くの高校生にとっては毎日「給食のない日」なのです。大学に進むと、バランスの良い食事からさらに遠のくという実態もあります。

継続的な食育で牛乳の価値を伝えながら、高校・大学の学食や売店を活用して、学内でいつでも牛乳を入手できる環境を実現する必要があります。

厳しさと向き合いながら生乳は生み出される

子どもの栄養と牛乳の関わりを議論してきましたが、生産現場は別の課題に直面しています。



④むすびえとJA全農酪農部と山岸牧場(北海道士幌町)が連携し、生産者と子ども食堂をつなぐオンライン牧場体験ツアーを開催。⑤事前に送った牧草や堆肥で牧場の「匂い」を体験しながら視聴。



森乳業では、学乳「わたぼく」のパッケージを活用して、月替わりで食育や牛乳に関する情報をマンガを使ったクイズ形式で紹介。子どもたちからは牛乳が楽しく飲んで勉強になると喜ばれている。



大村 貴志 (おおむら たかし) 氏
森乳業株式会社 営業部長
1995年に森乳業(株)へ入社し、営業・企画・開発の業務を担当。現在の児童生徒が楽しく学べる学乳パックデザイン企画を考案。焚火をこよなく愛し、お酒を片手に揺らめく火を見つめるのが癒しのひととき。もちろん翌朝は、LL牛乳で目覚め一杯。



加茂 太郎 (かも たろう) 氏
株式会社加茂牧場 代表 (地域交流牧場全国連絡会 会長)
1966年生まれ、千葉県船橋市出身。1989年から小学校教員を務め、2006年就農。2008年(株)加茂牧場設立。2021年から地域交流牧場全国連絡会会長。バイクレースの国際ライセンスを持ち、全日本ロードレース選手権に参加する一面も。



薬師寺 亨 (やくしじ とおる) 氏
認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ 準認定ファンドレイザー。事業会社にて製造業の自動化支援業務を担当。現在は認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえにて地域ネットワーク団体やこども食堂に対し、各企業からの支援物資仲介業務、ITによる情報発信支援業務を担当。



相川 敬 (あいかわたかし) 氏
相川海運産業株式会社 代表取締役 (元・公益社団法人日本PTA全国協議会 会長)
1953年生まれ。千葉県出身。高校卒業後、相川海運産業(株)入社。千葉市PTA連絡協議会会長、日本PTA全国協議会会長などを歴任。2018年より学童クラブ「相学舎」の運営にあたる。(公財)学校給食研究改善協会理事

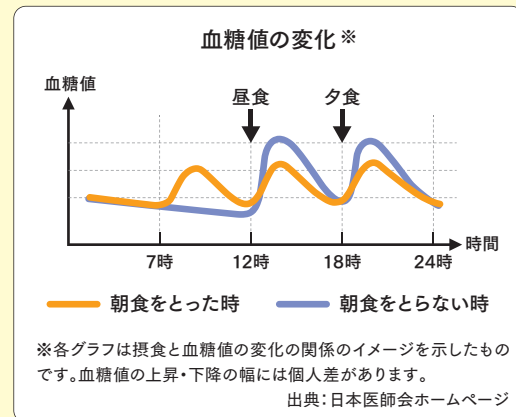
朝食といえば牛乳・乳製品!

最新研究でわかった!
ミルクの気になる

そもそも朝食って大切ななの?

「面倒だから」「時間がないから」「ダイエットしてるから」などの理由で朝食を抜いていませんか?朝食をしっかり摂ることは、エネルギーの補給、身体を目覚めさせる、体内時計をリセットして生活リズムを整える、便秘解消など、毎日を元気に過ごすための大切な生活習慣です。朝食抜きの食生活は私たちの健康にどのような影響をもたらすのでしょうか?まず、脳のエネルギーとなるブドウ糖が不足し、集中力や記憶力の低下が起こります。さらに、朝食を抜くと血糖値が低下するため、血糖値を上げようとする作用が高まり、このタイミングで昼食を食べると血糖値の急激な上昇を招きます。血糖値の急激な変動は体への負担となり、肥満になりやすくなります。また、国立がん

研究センターと大阪大学が行った研究では、朝食を抜く人ほど脳卒中を発症するリスクが高まることがわかっています。朝食で一日のはじめのスイッチを入れる習慣を身につけましょう。



ギモン vol.5

Q & A



朝食にとるたんぱく質が大切って聞いたけど?

朝食は、一日の活動や学習に備えるための最初の栄養補給となるため、生理学的にも重要な食事とされ、その意義について数多くの研究が行われてきました。最近報告された2つの研究を紹介します。いずれも東北大学で行われた日本人を対象とした研究で、朝食にとるたんぱく質の“質”に着目した研究です。私たちが食べる食品のたんぱく質

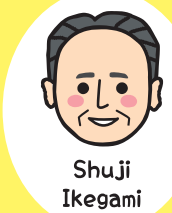
の“質”は、たんぱく質の消化、吸収まで考慮した「たんぱく質消化吸収率補正アミノ酸スコア(PDCAAS)」で評価することができます。最初の研究は、たんぱく質の“質”が低い朝食は高齢者の認知機能障害の発症率と関連しており、特に認知機能が低下した群では牛乳・乳製品の摂取量が少ないという結果でした。もう一つの研究は、たんぱく質の質が高い朝食は高齢者の筋力低下を防ぎ、生活の質の維持に重要であることを明らかにしました。

朝食に牛乳・乳製品を加えることで手軽にたんぱく質の質を高めることができます。ぜひ、朝食に牛乳・乳製品をどうぞ。



ACADEMIC RESEARCH Up date
Vol.22, Vol.23 (Jミルク)
Jミルク アカデミックリサーチ

あとがき



Shuji Ikegami

一日のスタートは朝食から始まります。エネルギーと質の高いたんぱく質を補給して、健やかな身体づくりのために、正しい朝食習慣を身につけることが大切です。牛乳・乳製品は栄養の密度も高く、たんぱく質の質も高いので、健康的な食習慣にきっとお役に立つはずですよ。

学術調査グループ 部長 池上 秀二
info@j-milk.jp



カルシウム200+

給食ない日も牛乳飲もう

学校が休みの日にお家でたのしく牛乳を飲むツール

子どもたちの栄養を考えて、お家での牛乳飲用を定着させるためのシールとリーフレットを制作。ターゲットは小中学生です。学校現場で、イベントで、酪農乳業関係のみなさんの家庭でもご活用ください。

Coming soon
12月配布開始予定
詳しくはこちら



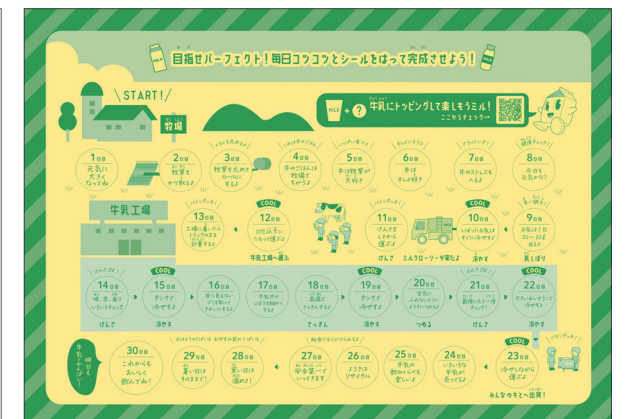
カルシウムをチャージ!

シール(B5)

- 表面 牛乳1杯(200ml)を量ってコップに貼れば、お家でも給食と同じ量の牛乳が飲める。1日1杯飲んだら裏面に貼る“ごほうびシール”付き(30日分)。
- 裏面 表面のシールを貼る台紙は、「牧場から食卓へ牛乳が届くまで」を学べる教材に。



表面



裏面

制作: ミルクマイスター 高砂さん

セットで活用しよう

牛乳にトッピング!

リーフレット(A4)

- 表面 “給食の牛乳”の大切さやカルシウムのはたらきについて学べる。
- 裏面 カルシウムを含む、休みの日に不足しがちな栄養素をトッピング!



トッピング提案:
料理家・管理栄養士
小山 浩子さん



表面



裏面

～楽しくつながる、北海道広尾町～



- (前列左から) 角倉 円佳氏 (株式会社マドリン 代表取締役)
 菊地 亜希氏 (菊地ファーム)
 (後列左から) 芳賀 基浩氏 (広尾町農業協同組合 営農事業部 農業振興課 課長)
 田村 朋之氏 (広尾町農業協同組合 営農事業部 農業振興課 主任)
 松山 孝三氏 (広尾町農業協同組合 営農事業部 部長)
 齊藤 祐輔氏 (広尾町農林課農政林務係 主事)
 三田寺 真助氏 (雪印メグミルク(株) 酪農部 北海道酪農事務所 課長〔十勝エリア〕)
 小澤 達也氏 (広尾町農林課農政林務係 係長)

SNSの活用で酪農乳業と牛乳・乳製品の価値向上へ

北海道広尾町では、農協を中心に酪農家と乳業メーカー、役場が連携して、消費拡大運動の動画をSNSで公開したり、女性酪農家たちが酪農と牛乳の魅力伝えるイベントを開催するなど、ポジティブ発信を活発に行っています。今回、関係者による座談会を開催、厳しい状況と向き合いながらも、酪農と牛乳・乳製品の魅力を大切にするみなさんの言葉から、酪農乳業が直面する課題を乗り越えるヒントを探ります。

時代の課題、地域の課題に酪農はどう応えていくか

「今、みなさんが仕事で感じている厳しさと、その中で工夫していることをお聞かせください。」

三田寺真助氏(以下、三田寺) 厳しさを感じるのは、生乳の需給緩和による乳製品在庫の積み増しです。業界でいろいろな対策をしていますが、大樹工場としても何ができるかを考えながら日々取り組んでいます。単独の活動ではなく広尾のみなさんと一緒になって消費拡大を図る活動が一助になればと思います。

小澤達也氏(以下、小澤) 行政としての課題は、コロナの影響、生乳廃棄の危機、飼料や燃料費の高騰などをどう支

援し、政策をどう組み立てるかを、マニュアルのない中で判断しなければなりません。

工夫点は、関係機関と連携して農協や雪印メグミルクと一緒にキャンペーンを行ったり、広尾町の公式YouTubeに動画を投稿したりしています。地元高校生が牛乳料理のレシピを考えて授業で作った動画もあるので、ぜひ見ていただきたいです。

松山孝三氏(以下、松山) 役場でのSNSに対する理解はどうですか？
小澤 こころ2年でSNSの重要性が認識されて、動画などをどんどんアップするようになっていきます。

三田寺 弊社も、若い社員はテレビよりSNSですね。

菊地亜希氏(以下、菊地) 私は、酪農という仕事を地元の方にもっと知っても

らうために、小学生の課外授業や「ピロフェス」というイベントを行っています。きっかけは、役場主催の人材育成塾で出会った広尾町の異業種の方たちから、酪農の仕事内容をほとんど知らなかったことです。酪農家が身近にいる環境だからこそ、地元のみなさんに酪農をもっと知ってほしいという思いから情報発信を続けています。

私は千葉から新規就農しましたが、その際にも地域の連携で酪農を支えようという意欲を感じました。

新規就農は、役場と農協どちらの支援も必要で、そこが広尾はすごく手厚くて本場にありがたかったですね。JAひろおは新規就農者の受け入れ実績があつて、他の農協だと辞めてしまう方もいる中で、誰一人脱落しない広尾はすごいなという話はよく聞きます。

松山 広尾町でも酪農と高齢化が進んでいて集落の限界点という課題があります。その解決策としても新規就農者の受け入れは重要なので、さまざまな形でサポートしています。

芳賀基浩氏(以下、芳賀) 今後集落の維持にどう対応していくかという施策の一つとして、学生との接点づくりにも力を入れています。

松山 人と人のつながりを大事にして、夢を追いかける人を支援することもJAひろおの使命です。菊地さんがカフェを開かれる際、立地条件や数字



④牧場を会場にした、食・音楽・雑貨販売の体験型イベント「ピロフェス」は、今年10年目を迎えた。⑤地元の子どもたちに酪農を知ってもらう活動として、牛と触れ合う酪農体験学習を実施。

菊地ファーム Webサイト▶



だけで判断せず、本人がやりたい夢ならさっさとがんばってくれるはずと支援を決めさせていただきました。

角倉円佳氏(以下、角倉) 私は、「S A K U R A 会」という北海道内の農業に関わる仕事をしている女性たちの会を開いています。この会で多くの農業女性たちとつながれたことで「酪農女性サミット」という企画も生まれました。

く、JAひろお、ホクレン、乳業メーカーをはじめ、消費者へつなげるまで多くの方々が関わっているから、私たちは安定して生産できるということでした。

今、コロナ禍やコストの高騰など厳しいことはいっぱいあります。「酪農家がかわいそうだから牛乳を飲んであげろ」と言われたこともありましたが、それは違うと思うんです。そうではなくて、健康意識が高まっている今だからこそ牛乳の素晴らしさをあらためて知ってもらい、積極的に飲んでもらうチャンスにしたいと感じています。

私の牧場では、畜産系や農業関係の学生たちの研修を受け入れています。かれらは今の情勢に流されず、酪農がやりたい、酪農家を目指したいというぶれない気持ちを持っています。今後の担い手となる若い学生たちの想いを大事にしたいなと思います。

これまでと違う部分で酪農家の力になるために

「JAひろおは、昨年からSNSを積極的に活用されていますが、その狙いは？」

松山 SNSは、多くの人に広く発信するのに重要なツールです。最近の情勢を踏まえて農協から酪農家へお願いすることが多い中、JAひろおがこ



④北海道広尾高等学校の生徒たちが、牛乳を使ったオリジナルレシピを開発し、実際に授業で調理。⑤広尾町の女性職員と村瀬町長が牛の衣装で登場し、牛乳消費を呼びかけたPR動画。



広尾町役場 広尾町公式チャンネル▶

組んでみた感想を。

三田寺 JAひろお独自の「#1日1L」に参加したきっかけは、訪問時に芳賀課長から「せっかくならからやってみて」と呼び止められて、部下と2人で各1リットル飲みました。

大樹工場に帰って、工場長に「農協の『#1日1L』に参加してきました」と話したら、「うちでも何かやるか」となり、誰がどれだけ飲んだかを競うレースをやることになりました。

さらに当社酪農部では、北海道、東日本、西日本などの各事務所対抗で、来客時にお出しした牛乳と、自分達が飲んだ牛乳の合計本数を競うレースをしました！優勝した事務所に酪農担当役員がポケットマネーで賞品を出してくれ

広尾町の酪農女性グループ「豊栄会」が酪農を楽しくPR



2021年に北大マルシェアワードを受賞した角倉さんは、受賞記念イベントに豊栄会のメンバーと参加。JAひろお感謝祭などでも、オリジナルの紙芝居や人形劇で酪農の仕事を楽しくPRしている。

豊栄会 Facebook▶



私たちは、何かあればすぐに集まって議論し、話し合い、協力できる。この酪農、乳業の密接な連携があれば、情勢は厳しくとも必ず乗り越えられると信じていますし、乗り越えたその先を一緒に考えていきたいです。

小澤 自治体職員として、日頃からおいしい牛乳・乳製品を供給して下さっている方々に感謝したいと思っています。昨年、消費拡大キャンペーンを実施した時、参加者から牛乳はいいね、おいしいね、がんばってなど、あたたかい言葉をたくさんいただきました。その言葉を施策という形に変えて生産者の

方々にお届けしたいと思っています。厳しい情勢が続きますが、今こそ連携して乗り切って、さらにより良い業界になると信じています。

菊地 厳しい情勢の中、今後の酪農乳業界について消費者を含めて考え、連携する必要があると思っています。その議論をする上で重要なのは、生乳やミルクサプライチェーンの特性を業界関係者はもちろん、消費者にも知ってもらうことです。今の酪農の状況をみんながきちんと理解することから連携は始まると思います。

角倉 ここ数年、農林水産省「食料・

ました！みんなで牛乳を飲んでいる姿をポスターにして事務所に貼ったりして盛り上がりましたね。SNSのつながりもそうですが、人と人がつながるのは楽しいなと思いました。

小澤 「#1日1L」は、役場の職員



④3年ぶりとなる十勝港まつり・ふるさと夏まつりの仮装盆踊り大会で、JAひろお職員有志が雪印メグミルクのパッケージで参加し優勝。雪印メグミルクよりお礼を届けた。
⑤雪印メグミルク 酪農部で昨年の年末年始に実施した、役職員自らで行う牛乳消費拡大ポスター。小坂橋 正人常務、戸邊 誠司常務、大平 昭彦酪農部長がポスターに登場。



雪印メグミルク(株) Webサイト▶



や地域おこし協力隊のメンバーに参加してもらいました。継続した動画にいろんな人が登場してくるので、次はこの人か、あの人は出ないかなと思っていたら、あ、出た！みたいな感じで楽しく見られました。自分の見たいときに見られるのはSNSの発信ツールとしての利点ですね。

齊藤祐輔氏 私は、ウシの着ぐるみを着て飲ませていただきました(笑)。おいしくて、すごく楽しかったです。JAひろおのSNS、ぜひご覧ください。

菊地 6月1日の「牛乳の日」では、消費者のみなさんへ感謝を伝えようとスタッフを含めみんなで写真を撮って、「いつも牛乳を飲んでくれてありがとう」の気持ちを発信しました。

角倉 農協が最初に動画を始めた時、私もやる！とすぐに手を挙げました。実は酪農家もみんな参加したい気持ちはあって、声かけを待っている人は結構います。だからこういう機会があればやる人は増えるでしょうから、JAひろおには積極的なきっかけづくりを期待しています。誰でも参加できる企画と場所があることで、関係者の一体感も生まれます。

「#ミルクのバトンリレー」は、6月の牛乳月間に限らず続けてほしいですね。参加者は記憶に残る楽しい思い出になるし、今後の牛乳消費にもつながります。きっかけは「面白いな」でいい

じゃないですか。牛乳を楽しく飲んでもらえることが大事なので。

芳賀 学生との接点づくりの関係で地元の大学生と連絡をとる機会が増えたので、私もSNSを始めました。「#1日1L」を本場に飲むインパクトを与えたいと思い、田村と動画を撮っていたら、松山が「編集する、さらに俺も飲むぞ」と言ってくれて。そして勢いですが、JAひろお独自の「#1日1Lチャレンジ」です。

松山 企画はノリが大事ですから。**芳賀** 今年の「#ミルクのバトンリレー」は、6月をすべて「#1日1L」動画で埋めようと思いい、毎日バトンみたいにつなげて投稿していきましました。そのバトンを帯広畜産大学の学生も受け取ってくれて、40人近く飲んでくれました。今後も続けたいですね。

農協は新しいことに慎重な面もありますが、松山のチームは、課の若い職員たちも集まって、否定するより進める力が強いのでみんなで楽しみながら取り組みました。

困難な時期にこそ連携の強さが試される

「今こそ連携」というキー

④「#1日1Lチャレンジ」と題して、生産者、農協職員らが1リットルの牛乳を飲み干す連作動画をSNSで配信。⑤昨年末には、関係者約40名が集めた牛乳消費拡大プロモーション動画を作成。

広尾町農業協同組合 公式Instagram▶



ワードで、全国の酪農乳業関係者へメッセージをお願いします。

三田寺 私が北海道庁の畜産振興課に出向していた時、行政も生産者も農協も全部同じ土俵で議論して同じ方向に向かう酪農業界の密接さを見て、ある職員が「他の農産物ではあり得ない」と驚いていたのが記憶に残っています。だから「今こそ連携を」というより、「今こそさらに連携を」だと思います。

農業 農村政策審議会」の委員として、年間の乳量を決める場に参加し、数字をクリアするために酪農家の規模拡大やロボット化を進めることがすべてなのだろうか、現場の目線ですと考えてきました。

結局、牛乳をもっと飲んでもらうことが大事で、快く飲んでもらうためには、牛乳の素晴らしさを伝えることが大切だと思って、消費者へ酪農の魅力を発信するイベントを開いています。

最初は、牛の苦しさを伝えるような劇を考えましたが、やはり牛乳は栄養満点でコスパが良く、体にもいい、そんな飲み物はなかなかないことを素直に伝えればいいと気づきました。

同じメッセージを一つの組織で伝えるより、みんなの力を合わせた方が広がります。私たち酪農家もうまく使ってもらって、誰かが誰かをたぐ、まさに連携した発信をしていきましょう。

田村朋之氏 市場に牛乳が出回るまで、こんなにいろいろな機関が携わっていることを一人でも多くの方に知ってもらえるよう知恵を絞っていききたいと思っています。

芳賀 何もないところから連携は始まらないので、きっかけをつくるのが大切です。農協からもSNSなどで積極的に発信していきたいと思っています。

松山 連携という意味でミルクサプライチェーンはどこが欠けても駄目だ

に、前向きな力を発信していければと思っています。

Webサイトの掲載はこちら



⑥ラジオ番組「とちかウーマンフロンティア(FM JAGA)」のDJも担当。酪農の魅力を明るく楽しく発信中。⑦就農希望の学生を積極的に研修で受け入れ、牧場経営の夢を後押ししている。

株式会社マドリン Webサイト▶



#私のミルク鍋 キャンペーン

2022年12月15日(木)~2023年1月31日(火)



牛乳をたっぷり使った「ミルク鍋」をつくって投稿!

「鍋のメ」も、ぜひシェアしてね。

みんなの「ミルク鍋」、大募集です!



牛乳を使えば

どんなお鍋でもOK!

和食・洋食の一流料理人がこだわりの「ミルク鍋」を考案し、期間中にJミルクの公式SNSで公開します。プロの味をご家庭でもつくれるレシピ、お楽しみに!

和食のプロ

洋食のプロ



笠原 将弘 (かさらは まさひろ)さん
日本料理「賛否両論」店主



川島 大輔 (かわしま だいすけ)さん
Bistro Tiroir シェフ

ごはん

私たち、ミルクでつながりました。

おもち

公益社団法人
米穀安定供給確保支援機構
全国米穀販売事業共済協同組合
一般財団法人 日本米穀商連合会

牛乳・乳製品

全国餅工業協同組合

やさい・くだもの

なべ

NPO法人 青果物健康推進協会

一般社団法人 ニッポン全国鍋協会

主催 一般社団法人Jミルク

後援 公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構、全国米穀販売事業共済協同組合、一般財団法人 日本米穀商連合会、全国餅工業協同組合、NPO法人 青果物健康推進協会、一般社団法人 ニッポン全国鍋協会

詳細はこちら



編集後記



Hiroko Suzuki

この冊子はたくさんの方々にご協力いただきながら完成しています。みなさんのお顔を思い浮かべ、感謝の気持ちと共に、今日も牛乳で乾杯です!

2021年「牛乳の日」に開始したメルマガは、登録者数が増え900人に! 広く情報をお伝えし、皆さんとつながりたいと思います。ぜひご登録と周知をお願いします。(目指せ20,040!)

Jミルク メルマガ

コミュニケーショングループ 課長 鈴木 浩子



Back number

J-MILK REPORT (Jミルクレポート)

バックナンバーはこちら



Jミルクの最新コンテンツ

日本のミルクサプライチェーン2022



Keita Kishimoto

生産流通グループ 主任 岸本 恵太

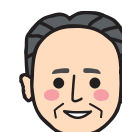
Jミルク 日本のミルクサプライチェーン2022

12月 公開予定



2021年度に制作した冊子の2022年度更新版です。生乳需給の構造・仕組みや業界が抱えている課題など、グラフや図を使ってわかりやすくまとめています。業界であらためて認識を共有し、今後の具体的な課題解決に向けた理解促進の一助となれば幸いです。

子どもたちに牛乳は必要か? 小中学生の発育と健康に牛乳が果たす役割



Shuji Ikegami

学術調査グループ 部長 池上 秀二

Jミルク ファクトブック 子どもたちに牛乳

詳細はこちら



成長期の子どもたちにとって、健全な食生活は、健康な心身を育むために欠かせません。近年、子どもたちの食に関連したさまざまな課題が浮上しています。肥満、やせ、朝食の欠食など。こうした課題に対して、牛乳はどのようにアプローチできるのか。子どもたちを取り巻く環境を検証し、あらためて牛乳の役割を考えます。

ラウンドテーブル・シンポジウム

持続可能な社会の実現に向けて酪農乳業はどのような貢献ができるのか



Akihiro Ogawa

学術調査グループ 主任 小川 哲弘

Jミルク ラウンドテーブル・シンポジウム

詳細はこちら



Jミルクとして初めてラウンドテーブル方式を取り入れたハイブリッド型シンポジウムを開催しました。SDGsに対応するための酪農乳業界の具体的な取り組みも踏まえつつ、持続可能な社会に貢献するための施策や可能性について業界関係者と研究者が意見交換しました。

牛乳乳製品に関する食生活動向調査



Takehito Ito

学術調査グループ 次長 伊藤 岳人

2022年度の牛乳乳製品に関する食生活動向調査では、経年比較調査に加えて、牛乳乳製品の値上げに伴う利用機会の動向や利用方法の変化、食品の価格上昇が家計に及ぼす影響や生活者の実感、植物性ミルクの利用意識、酪農家への共感意識、等をテーマとして調査しています。

12月: 一次調査結果
3月末: 2022年度総括公開予定

Jミルク 食生活動向調査



メディア向け

第54回メディアミルクセミナー ニュースレター

酪農乳業が直面する危機や生乳の需給調整などについて、北海道大学大学院の清水池義治准教授に解説していただいたセミナーの講演録です。サプライチェーン各段階の課題も含めて整理しました。生乳需給はメディア、ひいては消費者からわかりにくい点も多いため、初めてこうしたテーマでセミナーを開催しました。



詳細はこちら



Jミルク メディアミルクセミナーニュースレター